

# 土壌の可給態窒素診断結果に基づく青果用キャベツの窒素施肥量

可給態窒素を簡易測定し、青果用キャベツの作型別に設定した換算値を使って診断結果に基づいた窒素施肥ができる

## 背景・目的

- ・土壌の可給態窒素簡易測定法が開発されたが、窒素施肥への読み替えはできない
- ・可給態窒素から時期別の施肥窒素換算量を求め、キャベツの作型別に積算する施肥窒素換算法を開発
- ・これまでに公表したリン酸、カリに窒素を加えることで、土壌診断結果に基づく総合的な施肥設計が可能

## 成果の内容



可給態窒素の簡易判定法が開発された。



土づくり指標に使えるが施肥設計に活用できない



旬毎に土壌からの窒素発現量を施肥窒素量に換算して

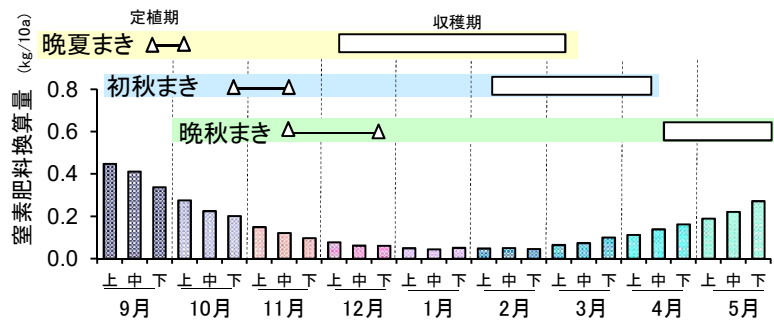


図 キャベツの作型と可給態窒素1mg/100gの窒素肥料換算量

キャベツ作型別に読み替え表を整理した

表 可給態窒素と施肥窒素の増減量

作 型	換算量 <sup>注1)</sup> (kg/10a)	可給態窒素 (mg/100g) と窒素増減量 (kg/10a) <sup>注2)</sup>				
		1	2	3(標準)	4	5
晩夏まき	2.1	+4.2	+2.1	±0	-2.1	-4.2
初秋まき	0.8	+1.6	+0.8	±0	-0.8	-1.6
晩秋まき	1.4	+2.8	+1.4	±0	-1.4	-2.8

注1) 換算量とは、可給態窒素1mg/100gが、施肥窒素で何kg/10aに相当するかを求めたもの  
 注2) 可給態窒素3mg/100gを標準として、高い場合は減肥、低い場合は増肥となる

導入メリット

慣行の標準施肥量で栽培すると、可給態窒素の違いによって収量が大きく変動するが、可給態窒素診断結果に基づいて窒素施肥量を加減すると、安定した生育、収量が得られる

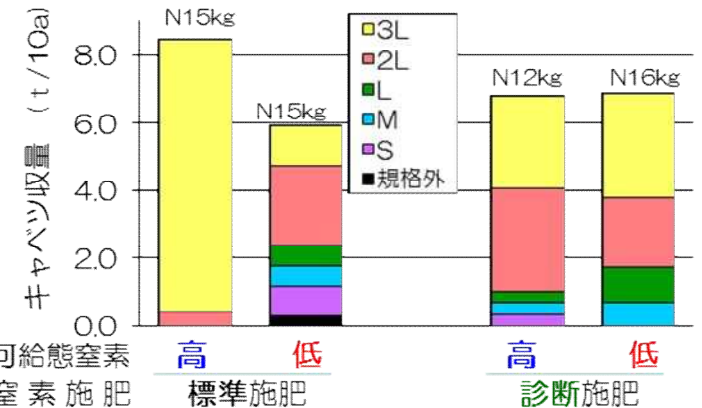


図 可給態窒素診断を活用した初秋まきキャベツの収量

注) 階級別単価はL~2L級が高く、3L級は半値以下になる場合がある。

さらに、リン酸およびカリの減肥指針と組合せて、土壌診断結果に基づく総合的な施肥設計が可能になる

## 期待される効果

可給態窒素レベルに応じた窒素施肥でキャベツ生産の高位平準化ができる

普及対象・範囲  
キャベツ生産者